

# 実践例「学習指導の深化・充実」

## 「課題5 学ぶ意欲を高める指導方法の改善と充実」

### I 学校名 白老町立虎杖小学校【胆振管内】

### II 研究の概要

#### 1 研究主題

自ら考え学ぶ子を目指して  
～国語科における指導事項を明確にした授業改善を通して～

#### 2 主題設定の理由

子どもの実態として、これまでの各種調査や授業の様子などから、自分の考えを持つことや、根拠を明確にして説明することに課題が見られ、また、昨年度までの複式学級を主体とした授業形態の研究において、主体的に学習を進めていく力が必要となることが明らかとなった。

そこで、大切になるのは言語能力の育成と考え、その根幹を担う国語科を研究教科に設定した。また、国語科で指導すべき事項をしっかりと身に付けさせるために、言語活動を位置づけた学習過程を子どもに提示することによって、見通しを持って主体的に学習する力が育つと考え、本主題を設定した。

#### 3 研究仮説

##### 【仮説1】

子どもに学ぶ見通しをしっかりと持たせることで意欲的に学習に向かうことができる。

##### 【仮説2】

子どもに身に付けさせたい力を明確にした授業を行うことで課題解決するための力が身に付けられる。

#### 4 研究の重点

##### ①単元指導計画の作成

- ア 言語活動を位置づけた単元指導計画の作成
- イ 部分的な言語活動を取り入れた授業改善
- ウ 複式授業の学習形態の工夫

##### ②評価の工夫

- ア 子どもに身に付けさせたい力を明確にした授業実践
- イ 指導と評価の一体化
- ウ チャレンジテストや全国学力・学習状況調査結果を用いた検証

※今年度は以下の3点を重点とした

- ① ウ 複式授業の学習形態の工夫
- ② イ 指導と評価の一体化
- ウ チャレンジテストや全国学力・学習状況調査結果を用いた検証

### III 実践例

#### 1 単元指導計画の作成

##### ①ウ 複式授業の学習形態の工夫

今年度は、授業を支える土台を徹底することを重点とした。土台については以下の通り。

- ・ 学習用具の統一・学習規律の共通理解  
「学習用具」「机の上に出すもの」「授業の挨拶」「話し方、聞き方」「ノートのとり方」「学習の準備」「教室を空けるとき」のそれぞれにおいて全校統一したルールを設けている。
- ・ 教室環境の整備  
「児童の棚の使い方」「雨具かけの使い方」「机横に下げるもの」を統一し整理整頓を心がけている。

また、教室内の壁面の使い方にもルールを設けている。

- ・ 授業の流れの統一

段階	1、課題把握	2、課題追究	3、解決・定着	4、適用・発展
名称	つかむ	とく・調べる	まとめる	ふかめる
わたり	直接指導	間接指導	直接指導	間接指導
学習内容	課題把握	一人学習 話し合い活動	話し合い活動 課題の解決	練習・発展問題 ドリル

※1では課題とゴール（児童の理想的な姿、身に付けさせたい力）、3ではまとめ、4では振り返りの時間を位置付ける。

### エ 板書とノートの一体化

【ノートの使い方】

つかむ	まとめる
とく・調べる	ふかめる

【黒板の使い方】

つかむ	まとめる
とく	ふかめる

### オ 学習リーダーを中心とした授業

右のようなカードを子ども一人一人に配付し、その日の学習リーダーが授業を進める役割を担う。

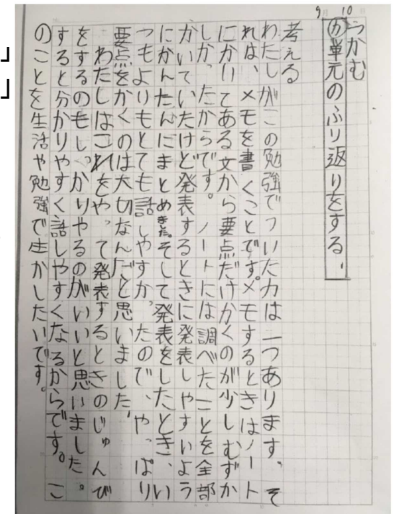
段階	国語	算数	主な学習活動	先生
1	つかむ	つかむ	1、学習課題を確かめる。 ○今日の課題は、 2、学習の手順を確かめる。 ○次の段階では、どんな学習をすればよいのか、先生の指示を聞きます。	○
2	かんがえる	しらとく	3、一人学習に取り組み。 ○それでは一人学びを始めます。○○について考えてください。 4、グループで話し合う。 ○学び合いを始めます。考えを発表してください。	×
3	まとめる	まとめる	5、話し合ったことを発表する。 ○グループで話し合ったことを発表してください。 6、学習課題を解決する。 ○さるさるまとめをしましょう。まとめを書いてください。 ○まとめを発表してください。	○
4	ひろげる	ふかめる	7、練習問題などに取り組み。 ○ ○答え合わせをします。 ○発表してください。 8、学習の振り返りと次の学習を確認。 ○振り返りを書きましょう。 ○発表してください。	×

### 2 評価の工夫

#### ②イ 指導と評価の一体化

指導事項をもとに単元指導計画の中で、どの部分をどのようなもの姿で評価するのかを考える。また、単元の終わりに「ふり返つ」の時間を設け、児童に「この学習でどのような力が身についたのか」「どのようなことがわかったのか」について、振り返るようにしている。

- ②ウ チャレンジテストや全国学力・学習状況調査結果を用いた検証  
全教職員で分析を行い、学習指導要領と照らし合わせて、どの指導事項を見る問題なのかを確認し、その力がついているのかを確認している。そして次の2点を考える。
- ・ 自己の授業はその力を付けさせるような授業であったか？
  - ・ 自分の担当学年では、何をしなければいけないのか？



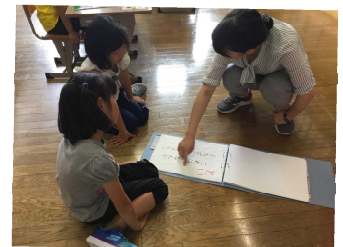
### 3 研究の成果と課題

#### ① 成果

- ア 学習規律（研修を支える土台）が定着してきた。
- イ 学習リーダーが機能し、授業を進めることができるようになってきた。
- ウ 指導事項を押さえた授業にすることで、児童のどのような部分を見ればいいのか明確になってきた。

#### ② 課題

- ア 学習規律の定着には、まだ差がある。
- イ 学習リーダーが育ってきているが、ばらつきがある。
- ウ 単元のねらい、授業のねらい、活動のねらいを明確にして授業を行うこと。



◆研修を支える土台を徹底し、学習指導要領に示されている指導事項を確実に指導することを目標に研修を進めてきた。成果と課題からも分かるように、まだまだ、発展の余地がある。児童にしっかりと国語の力を付けさせ、白老町立虎杖小学校の児童が「自ら学ぶ子」となるように、授業改善を軸にさらなる研究を進めていきたい。

## IV 資料

### 研究の全体構造図

学校教育目標	たくましく やさしく のびゆく子 ～虎のようなたくましさ 人を支える心の杖～
研究主題	自ら考え学ぶ子を目指して ～国語科における指導事項を明確にした授業改善を通して～
研究仮説	1、子どもに学ぶ見通しをしっかりと持たせることで意欲的に学習に向かうことができる。 2、子どもに身に付けさせたい力を明確にした授業を行うことで課題解決するための力が身に付けられる。
研究内容	1、 単元指導計画の作成 ○ 言語活動を位置づけた単元指導計画の作成 ○ 部分的な言語活動を取り入れた授業改善 ○ 複式授業の学習形態の工夫 2、 評価の工夫 ○ 指導と評価の一体化 ○ 子どもに身に付けさせたい力を明確にした授業実践 ○ チャレンジテストや全国学力学習状況調査を用いた検証
研究を支える土台	○学習用具の統一 ○学習規律の共通理解 ○教室環境の整備 ○授業の流れの統一 ○板書とノートの一体化 ○学習リーダーを中心とした授業 ○ファシリテーショングラフィックを用いた事後研修の取り組み
検証計画	○チャレンジテストや全国学力学習状況調査、CRT 標準学力調査を用いた検証 ○児童の振り返り（どんな力がついたのか、どんなことがわかったのか） ○参観者の振り返り（学習規律について、単元計画について）